

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600053		
法人名	株式会社 二千翔		
事業所名	グループホーム ほたる		
所在地	苫小牧市拓勇西町4丁目19-27		
自己評価作成日	平成 27 年 12 月 5日	評価結果市町村受理日	平成28年3月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 12 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>理念《ありがとう、言われるよりも伝えたい》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうと言われるよりも、ありがとうの感謝の気持ちを、日々伝えられるような介護を目指しています ・どんな状況にあっても、人生の先輩として尊敬し、尊厳を傷つけないように接しています ・誕生会や季節の行事に、ご家族も参加していただけるように連携しています ・個々の生活リズムを把握し、自分らしく安心して安全に過ごせるように配慮しています ・以前より続けている、小学校や保育園との交流と共に、町内会のお祭りに参加し、近隣住民との関わりを強化するよう努めています
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームはバス停に近く大型公園に面しており、行き交う人々や、土・日曜日には家族連れやペットの散歩などで賑わいがあり、地域の中にある存在感が感じられる瞬間にもなっています。町内会のイベントに出店を開き、利用者と一緒に売り子になって人々と交流をしています。近くの保育園児が利用者の誕生日や敬老会に訪れ歌の披露をしたり、職員たちが小学校に出向き認知症キッズ養成講座を開催している関係で、小学生がお礼にと千羽鶴を持参して利用者を喜ばせています。中学生の体験学習や地域のボランティアとの交流も、利用者の楽しみ事になっています。ホーム祭りでは、地域の方々から駐車場やテント、テーブル等を借り受け開催しています。管理者が信頼を寄せている職員は、大切な仕事と自覚を強く持ってケアサービスに取り組んでいます。職員は利用者や周囲の人々にありがとうの言葉をかけ続け、さらなる向上を目指している「グループホームほたる」です。</p>

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を作成し、リビング入口に提示している。新しく入社する職員にも理念を説明する事で、基本を再確認し、全員が同じ方向を目指し、日々の介護を実践できるよう努めている。	職員の思いを反映したホーム理念を策定していません。ホーム内の掲示や申し送り、会議、ホーム独自の自己評価時で理念の実践を確認しています。今回の外部評価に於けるサービス実施状況の振り返りも、理念を意識付ける機会となっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小中学校の授業の受け入れや、保育園児の施設行事へ参加の呼びかけ、また、町内会行事に参加し、交流の機会を増やそうと努力している。	町内会への加入は、平成28年春を予定していません。呼び掛けもあり町内会の行事に参加し、ホームへの理解に繋がっています。保育園児や小学生、中学生、地域のボランティアの方々との交流もあり、利用者が楽しく過ごす時間になっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校へ出向き、キッズサポーター養成講座を職員の寸劇を交え行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常の活動や、評価への取り組みを報告し、会議で出た話し合いの記録をミーティングで発表し検討している。	今年は諸事情が重なり運営推進会議は1回のみで開催となっています。地域の方の参加は得られていませんが、家族と行政の出席を得て会議前に実施された避難訓練に対して多様な意見や質問が出されています。	地域の方はもとより幅広いメンバーへの出席要請や、ホーム内に議事録の掲示、議題の工夫、出席しやすい日時設定等を検討し、活発な意見交換の場となる取り組みを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や避難訓練に参加してもらい、協力体制を築くよう取り組んでいる。	行政とは運営推進会議や避難訓練はもとより、事故報告書等の書類提出時や電話でホームの困難事例等を相談し、適切なアドバイスを受けています。利用者の不意の外出に備え、行政の提案で1階ユニットのみ窓を二重鍵にした事例があります。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、夜間以外は施錠しない、拘束のないケアに向けて取り組んでいる。	職員は、「どんなことがあっても虐待・暴力・身体拘束は行わない」と明記している運営方針を理解し、嫌なことは行わないと明言しています。上司はもとより、職員間でも注意し合える関係を築いています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止につながるようミーティングで話し合い、理解を深めるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等、全員が学ぶ機会を持っているとは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談時や契約時に詳しく説明し、話し合い、理解して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アイデア募集の箱を玄関に設置している。入居者様から意見の聴取に努め、ご家族様に運営推進会議に参加して頂いている。	家族に毎月、「ほたる通信」や担当職員直筆の手紙を送付しています。家族には来訪時や電話で利用者の状況を報告し、その機会に要望を傾聴しています。利用者からは関わりの中で把握しています。家族から外出先のイベント情報が寄せられ参考にしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで意見やアイデアを出し合い、検討するよう努め、個人の意見が聞けるよう、面談の機会を設けている。	代表者は随時ホームを訪れ、職員の動向を把握しています。管理者は必要に応じ面談を行い、職員が働きやすい環境を整えています。ケアサービス関連の業務は、全職員で協議し行っています。職員の要望で、車椅子対応車が導入されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績に応じて昇給を検討し、介護職員処遇改善交付金を活用している。福利厚生を利用し、職員間の交流を図り、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実績に応じて昇給を検討し、介護職員処遇改善交付金を活用している。福利厚生を利用し、職員間の交流を図り、職場環境の整備に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	他のグループホームと交流し、ネットワーク作りをし、お互いの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時に、本人に施設を見学して頂き、不安や心配を取りのぞくように努めている。また、来訪できない方には、こちらから出向き面談し、意見や希望を聴きながら信頼を築く努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に、ご家族様にも施設を見学して頂き、話し合いを重ね、不安の解消に努めている。入居開始時より、担当者が月に一度手紙を書いたり、来訪時や電話などで話す時間を設け、信頼を築けるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個人の情報を基に、一人一人に沿った対応に努めている。また、ご家族様の状況により、希望を聴きながら、個別に必要なとする支援に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ボランティアにならないよう、理念を基に、一人ひとりが、『今できる事』を無理せず出来るように努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪して頂けるよう、ほたる通信や担当者からの手紙、行事へのお誘いをし、来訪時に昔の話や、本人の思いなどを聴いたり、現在の心身の状況を話し合い、一緒に支えていく関係を築くよう努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時は、落ち着いて話ができるよう、好きな場所でくつろいでいただけるような、雰囲気づくりをしている。	職員は家族や友人、知人の来訪時は快く迎え、利用者との交流を支援しています。美容室やお墓参りは家族が同行しています。馴染みの場所への訪問希望は今のところありませんが、希望があった場合は意向に沿った対応ができるよう心掛けています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりの今の性格や癖を把握し、なるべく入居者同士で解決できるよう、見守りながら間接的支援を心がけている。			
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで通り、退去者の中に継続的な関わりを必要とする方はいないが、今後も相談に応ずる旨を伝えている。			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者制度を設け、より個別のニーズに合った対応を心がけている。また、月に一度のカンファレンスで意見を出し合い、検討している。	担当職員を中心に、全職員が利用者全員と密に関わっています。毎月の会議で利用者の全体像を確認しながら、要望を汲み取っています。表現が困難な利用者の場合は、しぐさや家族からの話を参考にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中で本人との会話、ご家族との会話をアセスメントや個人ノートに記載し、全職員が周知できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に気を配り、個別に記録し、毎朝・夕の申し送りで全職員に伝わるようにしている。また、何かあった際には、緊急でカンファレンスを開催している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度モニタリングを行い、期間に関わらず介護計画を見直し、作成できるよう意見交換をしている。	関わりの中から得た利用者の要望を踏まえ、毎月会議で利用者の状態を話し合い、主治医の所見も参考にしてケアプランを策定しています。日々の個人記録にケアプランのチェック欄を設け実践を確認しています。	ケアプラン策定時は家族の意見も収集し、利用者にとって安心した暮らしの支援となる取り組みと、統一したケアプランの実践チェックを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、申し送りを行い、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃より、臨機応変を心がけ、一人一人に合ったサービスができるように配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防やご家族の協力を得て、避難訓練を行っている。またボランティアとして、メイクやセラピーマッサージにも協力していただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの主治医と訪問看護で健康管理を行っているが、希望に応じた病院受診ができるよう、支援している。	かかりつけ医への受診は家族対応ですが、必要に応じて職員が同行しています。協力医による月1～2回の往診体制や看護師による週1回の訪問で健康チェックが行われており、利用者の心身の状態は関係者の共有としています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、個別の訪問以外に週一回の定期訪問を実施し、常に報告相談ができるよう、連携を取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院開いた際は、ご家族の希望や了解を得た上で、意思に病状説明や治療計画を聞き、ご家族の希望の下、早期退院できるよう援助している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取り介護の方針について説明を行い、重度化した際には、主治医・訪問看護と連携しながら、本人・ご家族の希望を聞き、状況に合わせて話し合い、看取りまで取り組む努力をしている。	利用時に医療体制を説明し、同意書を得ています。重篤時には主治医から関係者に説明があり、改めて指針を説明し同意書を得ています。職員は寄り添ってきた利用者を看取りたいとチームケアで実践しています。家族から、職員へ労いと感謝の手紙が届いています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルは作成されているが、全職員が対応できるかは不安が残る。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を、夜間想定で実施し、玄関と非常口に持ち出し袋を用意し、避難時に持ち出せるように整備している。	防災理念を掲げ、職員の意識付けを図っています。夜間想定避難訓練を年2回実施しています。運営推進会議開催前に、家族や行政の方々に避難訓練を見学して頂き意見をいただいています。地域の方や消防署署員の参加は得られていません。	非常時の対応には消防署の指導や地域の方々の協力なしでは限界がありますので、引き続き参加要請を行い、協力体制構築への取り組みを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を基本とし、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した声かけを行っている。	職員は、利用者の個性を尊重し尊敬の念を持った対応に努めることを共通認識としています。職員同士でも注意を促すなど、ケアサービス時で確認合っています。個人情報、事務室で適切に管理されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人ひとりの能力を把握し、個々のできる中で選ぶ機会を作り、それぞれが納得できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者様優先は周知できているので、一人ひとりに合わせた対応を、前年度以上に支援できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容や、メイクボランティアを利用し、個々の希望に合うように支援しています。また、日々の整容もケアプランに入れ、実践していけるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みを聞き、皆で買い物から後片付けまで、自ら進んでできるように誘導している。また、時期に合わせて、外で食事を摂る機会を設けている。	食材と献立は、外食業者から配達されます。届けられた食材をアレンジしたり、食材を用意して利用者の希望に沿った食事を一緒に作ることもあり、会話を楽しみながらテーブルを囲んでいます。ウッドデッキでおやつ時間を過ごすこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分が確保できるように配慮し、必要な栄養が摂れるよう、食事形態を個別に合わせて工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけをし、歯科医師の指導の下、口腔ケアを行い、うがいのできない方には、口腔清拭を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを行い、個々の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで排泄できるよう、声かけ・誘導・介助を行っている。	利用者の排泄の習慣を把握し、自尊心に配慮しながら声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄支援に努めています。職員は失敗が前提に利用者の気持ちを考えながら対応しており、その結果失敗が減少しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便を確認し、薬だけに頼らず、乳製品や食物繊維の豊富な食事や運動など、工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回以上を基本としている。声かけなどに工夫し、拒否の無いよう誘導し、本人の要望に添えるよう、安全に入浴できるように努め、二人介助で行う事もある。	毎日入浴出来ませんが、週2回を基本とし、利用者の状態によっては二人体制にして利用者の安心や心地良さに繋げています。時には利用者と一緒に入浴し、会話の中から思いを汲み取りケアプランに反映しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう、日中は活動の声かけを行い、休息は本人のペースに合わせている。眠れない時は一緒に過ごす等、安心できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを全職員が把握でき、誤薬防止のため本人と一緒に確認しながら服薬している。症状の変化については職員一人ひとりが気を配り、医療関係と相談できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的なことで、出来る範囲の家事を継続できるよう努めている。本人の希望を聞き、趣味や楽しみを、職員・入居者共に誘い合っ楽しんでるような誘い方を工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化で、全員そろっての外出は難しくなっているが、デッキに出て日光浴や車で外出まで、個人に合わせて支援を行っている。	高齢化等に伴い利用者全員での外出は困難になっていますが、近いにある大型公園での散歩で、利用者は子供達やペットの姿に癒やされています。利用者の希望を取り入れ、ドライブを兼ねて道の駅やサンガーデン、ペットショップ、大型商業施設等に出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・ご家族の希望により所持している。買い物の際は、職員が付き添い、本人に支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、その都度対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は暮らしやすさに配慮し、温度・湿度に加湿器を使用するなど、健康面にも配慮している。また、壁面は季節に応じた飾り付けを、入居者と一緒に行っている。	各ユニットは、それぞれに趣向を凝らしたクリスマスの飾り物が華やかな雰囲気を醸し出しています。共用空間は、温湿度計や採光に配慮し心地良い環境を整えています。動線を考慮して調度品を並べ替えるなど安全面にも気配りが見られます。昼食時はテレビを消して和やかな時間を過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の動きを止めることなくつろげるように工夫している。また、不穏時には場所転換をするよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や写真など、自由に持ち込んでいただき、心地よく過ごせるよう、転倒の危険があるものはご家族と相談しながら工夫している。	居室には、ロッカーが設置されています。壁に写真や塗り絵を貼ったり、テーブルセット、タンス、仏壇など利用者の大切な物が置かれています。家族と協力して、利用者が安心して暮らせる生活環境を整備しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	文字や記号を使用し、わかりやすいように、混乱せず動けるように、貼り紙などの工夫をしている。		